

**FDK**

# CSR Report 2019

FDKグループ CSRレポート



# スマートエナジーパートナー

FDKグループは、スマートエナジーパートナーとして、先端技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献してまいります。

## ■ 会社概要

会社名	FDK 株式会社 (FDK CORPORATION)
創立	1950年
本社	〒108-8212 東京都港区港南一丁目6番41号 品川クリスタルスクエア8階
資本金	31,709百万円 (2019年3月31日現在)
売上高	2018年度 (2018年4月1日～2019年3月31日) 連結: 72,113百万円
従業員数	連結: 3,557名 (2019年3月31日現在)
事業内容	各種一次・二次電池および蓄電デバイスならびにエレクトロニクス関連の素材・部品とそれらの応用製品・応用装置の製造および販売
主要製品	ニッケル水素電池、アルカリ乾電池、リチウム電池、マンガン乾電池、蓄電システム、各種強力ライト、電池製造設備、スイッチング電源、DC-DCパワーモジュール、トナー、液晶ディスプレイ用信号処理モジュール

## ■ 「FDKグループCSRレポート2019」について

### 編集方針

FDKは、FDKグループのCSR基本方針にもとづく様々な活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、「FDKグループCSRレポート2019」でお伝えしています。  
「FDKグループCSRレポート2019」では、FDKグループの「価値創造アプローチ」と、CSR基本方針にもとづく「7つの重点課題」の取り組みを中心にご報告します。

### 対象期間

2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日)の活動を中心に報告しています。(一部それ以外の期間の内容も含まれます。)

### 対象範囲

FDKおよびFDKグループを対象としています。一部の報告は、FDK単体のものがあります。

### 参考にしたガイドライン

「FDKグループCSRレポート2019」は、ISO26000 社会的責任に関する手引きや環境報告ガイドライン2012年版を参考に作成しています。

### ISO26000(中核主題)のアイコン



### お問い合わせ先

CSR・コンプライアンス統括部  
TEL: 03-5715-7402  
FAX: 03-5715-7401  
E-Mail: csr@fdk.co.jp

## Contents

トップメッセージ ..... 3

### FDKグループの価値創造アプローチ

● FDKグループの価値創造アプローチ ..... 5  
● FDKとステークホルダー ..... 7  
● CSRマネジメント ..... 9  
● 7つの重点課題 ..... 11  
● 安全・安心で環境に配慮した製品をご提供するために ..... 13

### マネジメント体制

コーポレート・ガバナンスの強化 ..... 15  
内部統制システムの構築 ..... 16  
コンプライアンスの徹底 ..... 16

### お客様・お取引先様とのかかわり

様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給 ..... 19

### 社会とのかかわり

ステークホルダーとの対話と協力 ..... 23

### 従業員とのかかわり

多様性の受容 ..... 25  
地球と社会に貢献する人材の育成 ..... 27

### 環境保全活動

地球環境保全への対応 ..... 29

概要、グループ会社 ..... 33

### SDGs(Sustainable Development Goals)

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



# TOP MESSAGE

## スマートエナジーパートナーとして、 FDKグループのビジョンを実現し、 社会に貢献する。

2020年2月FDK株式会社は創立70周年を迎えます。1950年にマンガン乾電池を製造する会社として創業し、その後、電池材料で培った技術を活かしてフェライト事業に進出し電子事業を拡大いたしました。一方電池事業はアルカリ乾電池、ニッケル水素電池、リチウム電池と拡大し、さらには電池と電子の技術を融合したシナジー製品として蓄電システム製品を提供してまいりました。FDKグループはこれらの先端技術と製品を通じ、一貫して「お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献」というビジョンのもとづくり、提供する製品やサービスを通じて社会課題の解決に貢献する、“本業を通じたCSR”を実践してまいりました。

### FDKグループのビジョンの実現を支える 取り組み

FDKグループでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組む7つの重点課題を定めています。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの理念である「FUJITSU Way」の浸透、定着を図るとともに、7つの重点課題の取り組み状況の定期的なレビューを行なっています。

7つの重点課題では、環境、多様性、人材、ステークホルダー、法令遵守、ガバナンスなどに関する責任ある取り組みを進めるとともに、重点課題「様々な形で社会に貢献する電池・電子製品を供給」の取り組みを通じて、社会課題の解決に貢献する“本業を通じたCSR”を実践し、当社のビジョンの実現に努めています。

経営の基盤となるコーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じた経営体制・組織の見直しなどを実施しています。

また遵法を確実にし、社会的な要請に対応するため、全社横断的な組織として安全衛生委員会、リスク・コンプライアンス委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会などを設置し、また、消費者課題については品質管理委員会、製品安全化推進委員会を設置して、適切な品質、安全性を確保するための品質保証体制の充実を図っています。さらに、よりグローバルな視点でCSRの取り組みを進めるため、国際的なCSR規範への準拠活動などを国内外の事業拠点、事業活動を構成する各社内プロセス、およびサプライチェーンに展開しています。

これらの取り組みをいっそう進め、継続的に改善し、FDKグループのビジョンの実現を確かなものにしていきたいと考えています。

### 従業員とともにビジョンの実現に向けて

FDKグループのビジョンを実現するうえで最も大切な経営資源は人材であると認識しています。FDKグループではCSR重点課題の一つに「多様性の受容」を掲げていますが、日本国内における女性管理職や外国人従業員比率は低く、多面的な発想やイノベーションの創出につながるような多様性には課題があると言えます。しかしながら、FDKグループはこれまでの事業の変遷の過程で異なる企業文化や考え方を有した人材を有しており、このような多様な人材をいっそう活かすことを含め、従業員のさらなる活躍とイノベーションの創出につながる取り組みを進めてまいります。また、FDKグループでは人材に関わるCSR重点課題として「地球と社会に貢献する人材の育成」を掲げています。階層別

研修、専門能力強化、グローバルビジネスリーダーの育成などの研修、技能習得機会を充実させるとともに、新たな施策も取り入れ、FDKグループのビジョンの実現を牽引する、グローバルに活躍できる人材の育成に注力していきます。

### バッテリーソリューションの提供を通じて、 社会や人々の安全・安心、発展に貢献

FDKグループではSMD対応小型全固体電池などの次世代電池の開発や事業化を進めています。既存の製品やサービスに加え、今後の社会の発展を支えるIoT、モビリティ、社会インフラなどの市場にこれらの次世代電池を始めとする新たな製品を提供してまいります。

FDKグループではSDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)のうち特に4つの目標の達成への貢献に注力することを掲げています。SDGsへの貢献のアプローチとしても重視されているアウトサイドインの視点で、社会課題の解決につながる取り組みをFDKグループならではのバッテリーソリューションの提供を通じて進めてまいります。

本レポートを通じてFDKグループの価値提供の取り組みやCSR活動についてご理解を賜われればと存じます。今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月

FDK株式会社  
代表取締役社長  
長野 良

# FDK



# FDKグループの価値創造アプローチ

FDKグループは、CSR基本方針にもとづく重点課題に継続して取り組むことによりグローバル企業として責任ある経営を推進し、これまで培ってきたコア技術をもとにした電池、蓄電システム製品、電子製品の開発・供給、バッテリーソリューションの提供を通じて、社会課題の解決に貢献するFDKグループならではの価値をステークホルダーの皆様に提供してまいります。



# FDKとステークホルダー

FDKグループの製品は、家庭や職場など人々の身近な暮らしに密着した様々な機器に使われています。社会インフラを支える機器や車、また医療・福祉の現場で活躍する様々な機器にも使われていて、人々の安全・安心な暮らしに貢献しています。また、省エネルギーや環境負荷低減に貢献する環境配慮型製品も数多く提供し、スマートエナジーパートナーとして持続可能な社会の発展に寄与しています。

## 社会インフラ・ビジネスで!

- エレベータ
- 緊急対策自販機
- 複合機(コピー・ファクス)
- 蓄電システム
- マウス
- パソコン
- 非常用照明
- センサー
- 通信基地局
- データセンター



### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 蓄電システム
- DC-DCパワーモジュール
- トナー
- など

## 医療・福祉の現場で!

- ベッドサイドモニタ
- 輸液ポンプ
- 電動車いす



### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- など

## ご家庭で!

- 煙探知機
- スマートメータ
- 携帯アンテナ基地局
- LED照明
- 自動車
- コードレス電話
- 玩具
- スマートフォン充電器
- クレジットカード
- 腕時計
- リモコン
- 液晶ディスプレイ
- 美容・健康機器
- 懐中電灯



### Output

- アルカリ乾電池
- ニッケル水素電池
- リチウム電池
- 液晶ディスプレイ用信号処理モジュール
- など

## FDKグループの注力するSDGs

## ステークホルダー



- エネルギー消費革新
- 蓄電、消費効率改善



- 新規技術・プロセス革新
- 省資源、省エネルギー



- 製造業としての品質
- リサイクルプロセス革新
- 省資源、廃棄、排出削減



- CO<sub>2</sub>削減
- 災害対策
- 防災、減災対策

お取引先

社員

お客様

株主・投資家

国際社会・  
地域社会

FDKグループのビジョンは「お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献」することです。FDKグループは保有する技術により提供する電池製品、蓄電システム製品、電子製品およびそれらの生産プロセスを通じて、再生可能エネルギー活用による蓄電、消費エネルギー効率の改善、資源利用効率の向上、CO<sub>2</sub>排出削減などの環境保全、インフラの改善、セキュリティ対策強化などに貢献しています。FDKグループの現有技術や製品により解決に貢献している社会課題、また今後の新たな事業施策や取り組みによる貢献の可能性も含めて、上記の4つをFDKグループの注力するSDGsとして決めました。

FDKは主要なステークホルダーをお客様、社員、お取引先、株主・投資家、国際社会・地域社会ととらえています。事業を通じてステークホルダーの皆様への価値提供を続け、持続可能な社会の発展に貢献します。

# CSR マネジメント

FDKグループにとってのCSRは、FDK企業行動指針と富士通グループの一員としてのFUJITSU Wayの実践を通じて、様々な社会課題の解決に取り組み、地球と社会の持続可能な発展に貢献していくことです。

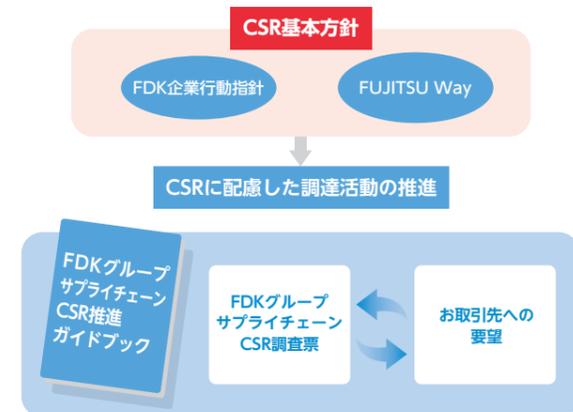
## FDKグループCSR基本方針

- FDKグループのCSR基本方針は、FDKグループで働くすべての人が積極的に実践すべき内容を示した「FDK企業行動指針」および富士通グループの一員としてのグループ理念である「FUJITSU Way」を実践することです。
- 我々は、「お客様にご満足いただける電池、電子製品の開発・供給により3E社会（環境保全・省エネルギー・経済発展）の実現に寄与し、様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーパートナーを目指す。」という方針のもと、すべての事業活動において、マルチステークホルダーの期待と要請を踏まえ「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」を実践することにより、地球と社会の持続可能な発展に貢献してまいります。
- CSRの実践にあたっては、7つの課題に重点的に取り組みます。
- これらの課題への対応を通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進します。

## CSRに配慮した調達活動

FDKグループは、「FDKグループCSR基本方針」、「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」にもとづき、お取引先とともに、CSRに配慮した調達活動を推進していくための指針として「FDKグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」をまとめました。

本指針を遵守した調達活動をするとともに、サプライチェーンを構成するお取引先にも同様に本指針の遵守をお願いしています。



## CSR活動推進体制

FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および「FUJITSU Way」の浸透、定着をいっそう推進するため、FDKではCSR推進委員会を設置しています。

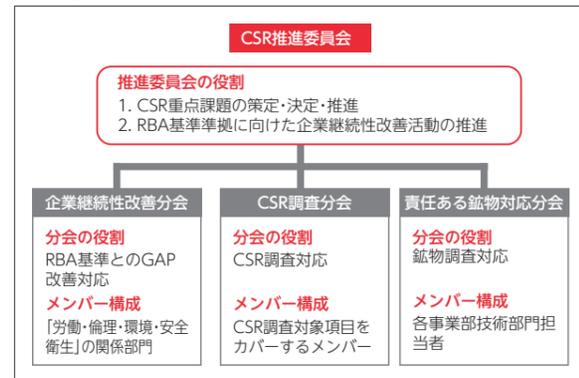
CSR推進委員会は、FDKグループの横断的なCSRマネジメント推進のため取締役（コーポレート担当）を委員長、CSR・コンプライアンス統括部を事務局とし、7つの重点課題の取り組み状況の確認、CSRに関連した情報や取り組みの確認などにより持続可能な社会とビジネスの在り方などについて定期的なレビューを行なっています。

国際的なCSR規範であるRBA（責任ある企業同盟: Responsible Business Alliance）への準拠推進やお客様からのCSRに関する調査・要請への適確な対応、鉱物調達\*の適切なマネジメントを目的とした3つの分会組織を設け活動しています。またFDKグループのCSR基本方針、重点課題・施策、活動実績などを掲載し、方針、状況、課題の社内共有を目的とした社内ホームページを設けています。

\*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長している、あるいは、人権侵害、労働問題などと密接に関連している鉱物。

2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」においては、コンゴ民主共和国および隣接国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、その他国務省が判断する鉱物を紛争鉱物として、米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合の米国証券取引委員会（SEC）への報告義務などが定められた。なお、FDKでは2019年度より、従来の紛争鉱物にコバルトを加えた高リスク鉱物に対する「責任ある鉱物調達」に取り組んでいます。

## CSR推進体制図

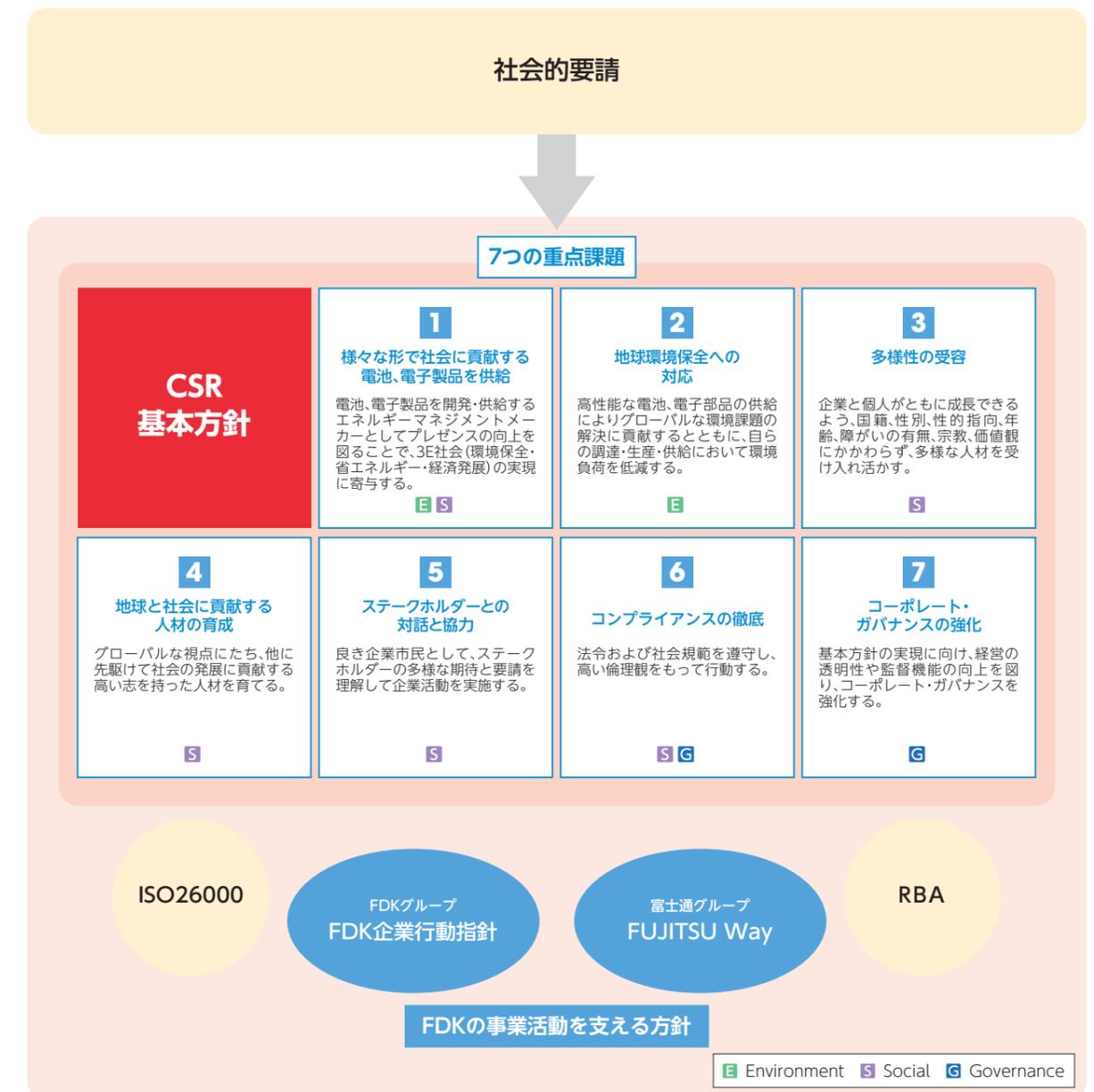


## FDKグループの7つの重点課題の位置づけ

FDKグループはCSR基本方針の実践にあたって7つの重点課題を設定しています。これらの重点課題は社会的な要請への対応や責任ある経営を推進するために、重要度、優先度を多角的に検討し設定しました。重点課題の実践を通じてステーク

ホルダーに価値を提供し、FDKグループのビジョンの実現に取り組んでいます。

CSRマネジメント活動として、ISO26000の中核課題やRBAの対象領域における規範への準拠活動を進め、経営品質の向上を図っています。



# 7つの重点課題

FDKグループは、7つの重点課題に沿ったCSR活動を推進しています。この重点課題は、FDKグループの事業を通じての社会貢献と、ISO26000の中核課題やRBAや重点領域において求められる事項に積極的に取り組み、グローバル企業として責任ある経営を推進することを目的とし、重点課題として次のとおり設定し取り組んでいます。

重点課題	あるべき姿	重点施策	2018年度の取り組み		ISO 26000	参照
			目標	実績		
<b>1 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品の供給</b> 様々な形で社会に貢献できるスマートエナジーパートナーを目指し、お客様にご満足いただける電池、電子製品を開発し供給する。	保有技術を活かした市場ニーズに応える製品開発と供給を継続的に進め、環境変化に柔軟に対応することで、お客様に満足いただける信頼がおけるスマートエナジーパートナーとして認知される。	<製品> 差別化技術から生み出した新たな付加価値を提供する製品の開発促進 <取り組み> ●素材を活かした製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値を向上 ●SDGsの達成に向けた社会課題解決型の製品やビジネスの拡充	<製品> ●市場ニーズに応える価値ある製品を成長が見込まれるインダストリアル市場に向けて継続的に投入 ●電池・電子の保有技術を活用し、市場ニーズに応える製品を市場投入 <取り組み> ●市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現	<製品> ●家電市場向けに、安全性や保存性能を改善したより安全・安心な電池製品やコストダウンモデル、環境に配慮したパッケージを使用した電池製品の開発、供給を行なった。 インフラ市場向けには、車載、防災/セキュリティ、スマートメータ、バックアップ電源用途などに、お客様の要望や環境課題に対応した電池製品の開発、供給を行なった。 ●電子製品では、お客様の消費電力の低減や小型軽量化に貢献するコンポーネント製品、モジュール製品の開発を行なった。 ●SMD対応小型全固体電池の開発とサンプル出荷し、お客様や社会の課題解決に貢献する次世代電池の量産化に向けた取り組みを推進。また、社会インフラでの活躍が将来的に期待される水素/空気二次電池の開発に向けた取り組みを開始		P19~P22
<b>2 地球環境保全への対応</b> 高性能な電池、電子製品の供給によりグローバルな環境課題の解決に貢献するとともに、自らの調達・生産・供給において環境負荷を低減する。	環境問題を常に意識し、グリーンエコノミー時代の実現に向けての製品提供により社会全体の環境負荷・環境リスク低減に積極的に取り組んでいる。 ●地球温暖化防止のため工場や事務所での省エネルギー対策や物流改善の推進などに取り組む。 ●3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動により環境負荷を低減する。	<お客様の環境負荷低減> ライフサイクルを考慮した環境配慮製品開発の推進(省エネルギー製品、省資源効率製品) <自らの環境負荷低減> ●エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質排出量の削減	<環境配慮製品の開発> ●エネルギー効率改善に寄与する製品 各拠点1件/年以上 ●資源効率改善に寄与する製品 各拠点1件/年以上 <エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量削減> ●エネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量を国内FDKグループ全体で46,169t以下に抑える ●エネルギー消費原単位を各拠点年平均1%改善 <廃棄物発生量の削減> ●廃棄物発生量原単位を各拠点2015年度比3%改善 <化学物質排出量の削減> ●PRTR対象物質排出量原単位を各拠点2015年度比3%改善	<結果> ●製品開発は、目標達成 ●CO <sub>2</sub> 排出量削減は、目標達成 特、FDKエンジニアリングでは新機種の省エネ効果でCO <sub>2</sub> 量36%削減 <課題> ●目標設定の精度向上(予算の精度)、適切な原単位設定、さらなる省エネ対策		P29~P32
<b>3 多様性の受容</b> 企業と個人がともに成長できるよう、国籍、性別、性的指向、年齢、障がいの有無、宗教、価値観にかかわらず、多様な人材を受け入れ活かす。	FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別*を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践している。 *国籍、人種、性別、宗教、信条、社会的身分、出身地、障がい、性的指向などによる不当な差別やセクシャルハラスメント、精神的もしくは肉体的な暴力などによる人権侵害	●すべての人が働きやすい職場環境の整備 ●人事・処遇制度の改善 ●研修、セミナーによる啓発活動の充実	●働き方改革への意識醸成 ●フレックス、時差勤務、テレワーク、在宅勤務などの拡充と導入検討 ●介護社員、障がい者、LGBTの理解促進に向けた啓蒙活動 ●障がい者、LGBTに対応した働きやすい職場環境の検討 ●幹部社員(職場マネジメント)セミナーの継続開催 ●主任社員へのセミナー開催 ●シニア社員向けライフプランセミナーの開催 ●次世代リーダー育成研修の開催 ●男性の育児休業取得率アップに向けた推進 ●行動計画の実行(女性の意識改革と監督職の増員)	●フレックスに関するアンケートを実施し、2019年4月に国内グループ会社で開始 ●有休取得率向上を目的に、2019年度から有休取得促進日を1日増加することを労使間で合意し、また年間の稼働カレンダーを長期連休の期間を従来より長くした。 ●障がい者雇用・近隣の特別支援学校から雇用するための取り組みを開始。 ●働きやすい環境整備のための各事業所の設備調査にもとづき、各事業所に多目的トイレを設置予定 ●規程の見直し・同性パートナーへの社内制度適用に向けて、人権週間の取り組みの中でLGBTに関する研修、リーフレットの配布を実施。 ●キャリアデザイン研修を2019年1月に開催 ●2018年12月までに各事業所にて開催 ●2018年7月、8月、9月に次世代リーダー育成研修を開催 ●女性のキャリアアップ研修を11月に実施		P25~P28
<b>4 地球と社会に貢献する人材の育成</b> グローバルな視点に立ち、他に先駆けて社会の発展に貢献する高い志を持った人材を育てる。	長期的視点に立ち、ビジネスを通じてグローバルに活躍できる人材を育成している。	●ビジネスを通じて地域・社会に貢献する人材の育成システム充実 ●地域・社会とのつながりによるコミュニケーション力の育成	<FDKグループ人材育成計画(3年目)の実行> ●既存研修のブラッシュアップ ●教育計画の可視化および共有化 ●研修カリキュラムのブラッシュアップ ●研修プログラムのブラッシュアップ <次世代ビジネスリーダー・プロフェッショナル人材の育成> ●リーダーシップ研修を開催 <グローバル採用に向けた企画と施策の検討> <グローバル人材の育成を目的としたセミナーの開催> ●異文化理解を深める研修を開催	●教育計画を作成し、実績を社内で共有化 ●2018年7月、8月、9月にリーダーシップ研修を開催 ●異文化セミナーを2018年7月、2019年2月に開催		P25~P28
<b>5 ステークホルダーとの対話と協力</b> 良い企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施する。	公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的に進めている。	<ステークホルダーとの対話機会の充実と要請事項への的確な対応> ●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話 ●地域社会:地域住民への社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など)	●CSR報告書の発行 ●お客様:情報提供要請に対する適切な情報開示 ●株主、投資家:株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 ●取引先:双方向コミュニケーションの充実 ●従業員:労使対話、満足度調査、経営トップとの対話、リスクマネジメント推進 ●地域社会:地域住民などへの社会貢献活動	●CSRレポート(2018)を2018年9月に日本語版発行。同11月に英語版発行 取引先などからの評価、従業員研修でのアンケートを実施 ●適時開示を継続的に実施 ●投資家・株主との対話:179件、顧客からのCSR/紛争植物調査対応:241件、リスクに関する外部からの問い合わせ対応:15件 ●[FDKグループサプライチェーンCSR調査]を主要取引先に展開、フィードバック実施 ●労使連絡会は毎月開催 人事ホットラインへの相談3件すべてに対応 ●各事業所にて地域貢献活動を実施		P23 P24
<b>6 コンプライアンスの徹底</b> 法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する。	経営者および全従業員が常に法令および社会的規範を遵守した行動をし、また新規・改正情報も迅速に認識、対応できている。	●企業継続性改善活動拡充(評価・改善、教育など) ●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 ●教育プログラムの策定、実施(行動指針、企業倫理面の海外拠点展開を含む) ●モニタリング強化 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映	●コンプライアンス関連規定の整備 全社規定の制定/改廃実績(制定4件、改定91件、廃止49件) ●教育プログラムの策定、実施 ●コンプライアンス教育の実施 ●e-Learning 延べ受講者数 5,436名 ●随時研修での教育実施(マネジメント研修、新任部長研修、中堅社員研修、新入社員研修) ●輸出管理教育の継続実施 ●下請法講習会の継続開催 ●モニタリング強化 ●内部通報受付:3件 ●新規、改正法令情報の的確な取得と反映 ●法令改正情報などをまとめた社内向け業務ニュースの発行10回 ●輸出管理:懸念顧客のスクリーニングツールとして、Chaser Listを導入		P15~P18
<b>7 コーポレート・ガバナンスの強化</b> 基本方針の実現に向け、経営の透明性や監督機能の向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化する。	経営者はコーポレート・ガバナンスの本質をよく理解し、必要に応じた経営体制の見直し、組織の整備などを実施している。	●取締役会の監督機能が十分にあり、監督と業務執行が分離され、的確な意思決定が行なわれる機関設計の検討 ●取締役会の実効性の維持、向上を目的とした取締役会の評価(自己評価と外部機関による検証、継続的改善)およびトレーニングの実施	●監査等委員会による社外取締役との円滑な情報共有と高い監査・監督の継続 ●取締役会の取締役会の自己評価とトレーニングの継続 ●執行役員による上記トレーニングへの参加	●監査等委員会において、2018年度監査方針および計画、往査結果を報告 ●会計監理人から連結財務諸表監査に対するレビュー結果を共有 ●監査部からの監査計画、結果報告 ●2019年3月取締役会の自己評価および取締役会のトレーニングを実施 テーマ:会社役員の義務と責任、経営戦略と経営管理(執行役員もトレーニングに参加)		P15~P18

# 安全・安心で環境に配慮した製品をご提供するために



FDKは事業活動の全プロセス(バリューチェーン)において、お客様に安全・安心で環境にやさしい製品をご提供する取り組みを社内で連携のもと進めています。またその前提として、自社内での環境の取り組みやコンプライアンスを徹底して経営品質を高めることが重要であると認識しています。当社のお取引先との連携を含めた活動を推進し、お客様にとって価値のある製品とサービスの提供に取り組んでまいります。



## 品質保証



## 方針

品質憲章に「お客様の信頼に応える品質の提供」を掲げ、FDK企業行動指針、FUJITSU Wayにもとづき、事業活動のあらゆる面で製品・サービスの品質・安全確保の努力を継続し、お客様・社会とともに豊かな未来を創造していくことで、企業価値向上に努めています。次の7つの指針に則り、品質・安全を追求し実現していきます。1.お客様起点での品質追求、2.変化を先取りした品質づくり、3.社会的責任を果たす品質の確保、4.三現主義(現場、現物、現実)による継続的改善、5.ビジネスパートナーと連携した品質向上、6.品質情報の公開と対応、7.品質を考える人づくり。

## 方針実現に向けた取り組み

- QMS(Quality Management System)による、製品企画から製造・出荷・アフターサービスに至る各ステップでの品質保証活動
- PDCA(Plan Do Check Action)サイクルによる継続的改善
- 全事業部との定期打合せによる情報共有、品質目標策定と監視、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材教育、不具合事例やノウハウなどの水平展開
- 全社品質管理委員会の活動による、製品枠を超えた経営面からのアプローチ

# マネジメント体制



## 社会的要請

- 監督機能の強化
- 経営の透明性確保
- 企業倫理の意識向上

## FDKのアプローチ

- コーポレート・ガバナンスの強化
- 内部統制システムの構築
- コンプライアンスの徹底

## マネジメント体制のハイライト

社外取締役の人数 (取締役総数7名)	全従業員対象の コンプライアンス教育 受講者数	社内イントラネットでの コンプライアンス関連 情報発信件数	労働災害発生件数
3名	5,436名	27件	9件
労働災害度数率	労働災害強度率	顕在化リスクの マネジメントレビュー件数	内部通報件数
0.25	0.00	27件	3件

## マネジメント体制を支える取り組み

### コーポレート・ガバナンスの強化

#### 基本的な考え方

FDKグループは、コーポレート・ガバナンスを充実することが、企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、金融商品取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じて経営体制の見直し、組織の整備、必要な施策を実施しています。また、経営内容の迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行なうなど幅広い情報開示を図り、公正性と透明性を高めることにも努めています。なお、FDKは経営の監督と業務執行体制を分離した事業運営を図るため、執行役員制度を導入しており、その体制は取締役兼執行役員2名と執行役員9名で構成されています。なお、監査等委員を含む取締役7名のうち、3名が社外取締役です。

#### 取締役会

FDKの取締役会は、取締役(監査等委員を除く)4名と監査等委員である取締役3名で構成されています。取締役会は原則

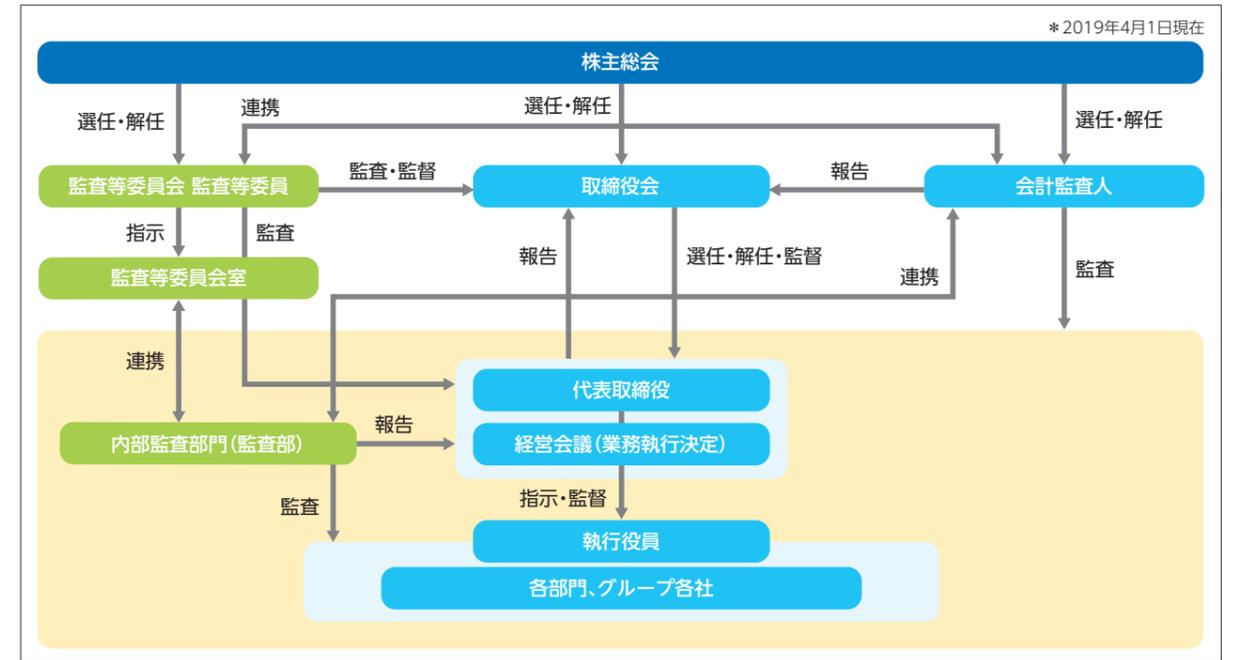
毎月1回開催し、経営に関する重要事項を決定するとともに業績の進捗状況についても議論し対策などを検討しています。

#### 監査等委員会

FDKの監査等委員会は、社外取締役2名を含む取締役3名の監査等委員で構成され、原則毎月1回と必要に応じて随時開催し、経営の適法性および妥当性の監督、監査を行なっています。また、各監査等委員は、取締役会に出席し、経営全般または個別案件に関する客観的かつ公正な意見陳述を行なうとともに、監査等委員会で立案した監査方針に従い、取締役の業務執行の適法性、妥当性を監査しています。

なお、監査等委員である社外取締役との円滑な情報共有を行なうことにより、質の高い監査・監督を行ない、ガバナンスの強化に貢献することを目的として、監査等委員会室を設置しています。監査等委員会、監査等委員会室、会計監査人および監査部とは、相互の情報交換・意見交換を行なうなど連携を密にして、監査の実効性と効率性の向上を目指しています。

## コーポレート・ガバナンス体制図



## 内部統制システムの構築

### 基本的な考え方

FDKグループは、企業の社会的責任を果たすためには、コーポレート・ガバナンスの充実が不可欠であるとの認識のもと、「内部統制システム構築の基本方針」を取締役に決議し、社員、取引先、地域社会などのステークホルダーとの健全で良好な関係を維持しつつ、業務の適正、財務報告の信頼性を確保するとともに、関連法規、定款を遵守する経営を実現しています。

### コーポレートガバナンス・コードへの対応

FDKは、2018年6月にコーポレート・ガバナンス報告書を開示しています。その後同年6月1日に改定があったコーポレートガバナンス・コードを反映したガバナンス報告書については2018年12月に開示しており、2018年度も引き続きComply項目の充実に取り組みました。

## コンプライアンスの徹底

### 基本的な考え方

FDKグループは、従業員一人ひとりの行動の基準となる「FDK企業行動指針」を2000年に定めています。この行動指針において、「法令および社会規範を遵守し、高い倫理観をもって行動する」という方針を明確に示し、消費者やお取引先様の信頼を得られるように努めています。この行動指針をイントラネット

### コーポレートガバナンス・コード

#### 「基本原則4:取締役会の責務」の充実・強化

- ①取締役トレーニング  
専門知識の更新および専門外知識の習得を目的として、取締役および執行役員を対象としたトレーニングを年間1回(2テーマ)実施し、取締役の知識、知見の向上に取り組みました。
- ②取締役会実効性評価  
昨年に引き続き、アンケートによる評価手法および第三者機関によるアンケートの分析結果にもとづいたディスカッションを実施し、取締役会における課題のさらなる深掘りを行ない、取締役会の監督機能強化に取り組みました。

に掲載するとともに、各職場に掲示して全従業員が常に確認できるようにすることで、個人の自覚と行動をうながしています。

#### 教育の実施

FDKグループでは、新入社員、新任課長などを対象とした階層別研修において、社内規則や外為法、製造物責任法、独占禁

止法、個人情報保護法などの業務に関係の深い法令について解説を行ない、理解促進を図っています。この他にも全従業員を対象とした、様々なコンプライアンス教育を実施しています。輸出管理および下請取引の分野については、各事業所において毎年講習会を開催しています。

2018年度は全従業員を対象に、医薬品医療機器等法および独占禁止法に関するe-learningを実施し、延べ5,436名が受講しました。

また、イントラネットを利用して、法令の改定情報や違反事例の紹介など、コンプライアンスに関する様々な情報を従業員に提供し、法令遵守に対する意識の向上に努めています。2018年度は、外為法、独占禁止法などを題材として、27回の情報発信を行ないました。



コンプライアンスの徹底(本社説明会)

### 事業運営に関わる法令の遵守

FDKグループの事業運営にあたっては、遵守しなければならない様々な法令、基準などがあります。これらに加えて、文化や慣習を理解し社会動向などにも的確に対応することにより、倫理的な側面からもコンプライアンスの徹底を図っています。また、対象分野ごとに安全衛生委員会、環境管理委員会、含有化学物質管理委員会、輸出管理委員会、製品安全化推進委員会などの専門組織を設置し、法令などを遵守した事業運営に取り組んでいます。

### 安全衛生活動への取り組み、労災発生件数・対策

#### ▶ 1. 安全衛生方針

労働災害はあってはならないを基本に、従業員の安全および健康の増進と確保を目指し、労働災害ゼロの達成に向け、自主的な安全衛生活動を体系的かつ継続的に展開し、全員参加による安全で快適な職場づくりを実践しています。また、従業員の心の健康への対策は、従業員本人や家族の幸せにとどまらず、企業への信頼や円滑な事業運営といった観点からも重要であり、メンタルヘルスへの取り組みを強化しています。

#### ▶ 2. 労働安全推進体制

FDKグループでは、各事業所における「事業所安全衛生委員会」を統括する機能として、社長および労働組合の委員長などで構成される「中央安全衛生委員会」を四半期ごとに開催し、各事業所での活動内容の情報共有を図ると同時に、全社的な活動内容を策定しています。

各事業所では、毎月「事業所安全衛生委員会」を労使合同で実施し、事業所に適した安全衛生活動を実施しています。なお、一部の事業所では国際規格の「OHSAS18001」を認証取得しています。

#### ▶ 3. 労働災害の発生状況

2018年度は、9件(前年度は4件)の労働災害が発生しました。なお、災害度数率、強度率は全国平均および電気器具業界を下回る水準で推移しています。

#### ■ 度数率推移



#### ■ 強度率推移



#### ▶ 4. 安全衛生教育

FDKグループ全体での、新入社員向けおよび階層別の安全衛生教育を実施すると同時に、各事業所ごとに能力向上教育・資格取得を推進しています。



危険体感風景(プレス挟まれ体感) 危険体感風景(ギア・ローラー挟まれ体感)



危険体感風景(指差呼称体感)

### リスクマネジメントの取り組み

#### ▶ 1. リスク・コンプライアンス委員会

FDKグループにおける事業遂行上生じうる一定の損失を伴うリスクの顕在化を防止し、顕在化したリスクに適切に対応するとともに再発の防止を行なうため、「内部統制システム構築の基本方針」にもとづき、リスクマネジメントおよびコンプライアンスにかかる最高決定機関として、リスク・コンプライアンス委員会を設置しています。

#### ▶ 2. リスクマネジメントのフレームワーク

リスク・コンプライアンス委員会は、FDKグループにおけるリスクマネジメントの状況を把握し、方針・プロセスなどを決定、実践するとともに、継続的な改善を行ないます。

#### ▶ 3. リスクマネジメントのプロセス

各部門において、①事業活動に伴う潜在リスクを抽出、評価・検証します。②各リスクの対応優先度を明確化し、リスクコントロール(リスクの回避・軽減・移転・保有)の方針を決定します。③決定された方針に従って、各部門にて未然防止策を実行します。リスクが顕在化した場合には、各部門は迅速なエスカレーションを実施します。また、各関連部門、リスク・コンプライアンス委員会事務局などと連携し、適切な対応により、問題の早期解決、影響の最小化を図るとともに、原因究明に努め再発防止策を立案・実行します。

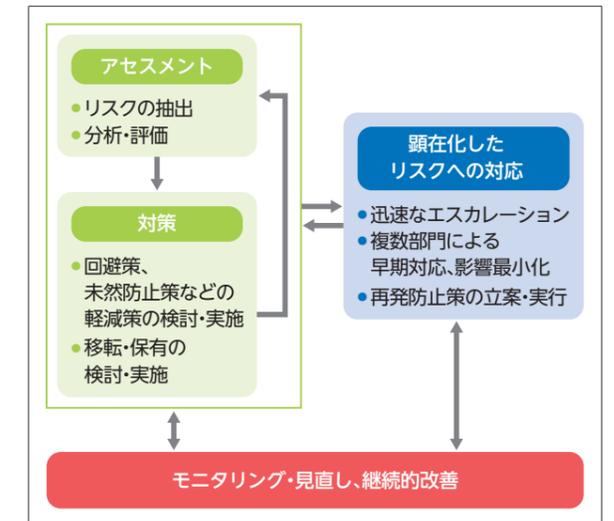
これらの各プロセスについても、実行状況を確認し、随時改善を図っていきます。

#### 危機(顕在化したリスク)の例

- ① 自然災害・事故
- ② 製品トラブル
- ③ 企業攻撃・コンプライアンス違反
- ④ 情報セキュリティトラブル
- ⑤ 環境問題 など

2018年度は、顕在化したリスク27件についてマネジメントレビューを実施しました。

### ■ リスクマネジメントのプロセス図

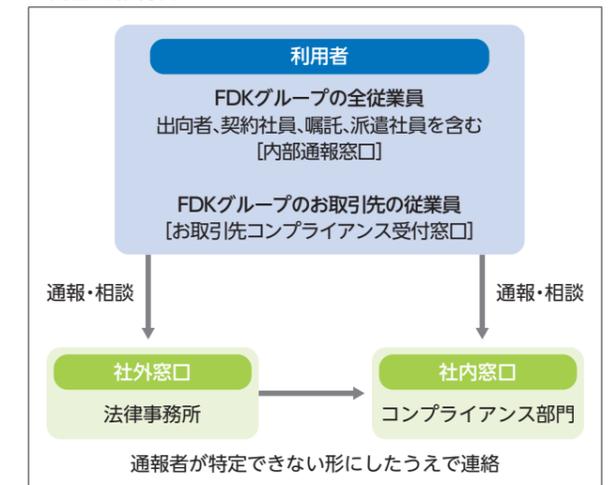


### 内部通報制度

FDKでは、社内ルール違反や法令違反行為に関する通報・相談を受け付ける「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」を設置しています。

「内部通報窓口」および「お取引先コンプライアンス受付窓口」においては、「内部通報規程」によって通報者の秘密が確保されるとともに、通報を行なったことによるいかなる不利益も受けないことが保証されています。通報にもとづく調査の結果、問題が認められた場合は、すみやかに改善措置を講じています。なお、2018年度には3件の通報があり、適切な対応を実施しました。

### ■ 内部通報制度



# お客様・お取引先様とのかかわり



## 社会的要請

- 製品品質・経営品質の重要性
- 社会インフラにおける安全安心ニーズの広がり
- 省エネ政策推進に向けた法制化

## FDKのアプローチ

- 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給する「スマートエナジーパートナー」として、お客様にサービス・価値を提供

## お客様・お取引先様とのかかわりのハイライト

各種展示会への出展件数 <b>8</b> 件	エネルギー効率改善に寄与する製品の開発件数 <b>4</b> 件	資源効率改善に寄与する製品の開発件数 <b>3</b> 件	ISO9001 認証生産拠点数 <b>9</b> 拠点
IATF16949 認証生産拠点数 <b>3</b> 拠点	品質保証統括部による事業部間ミーティング実施回数 <b>16</b> 回	経営トップ参加の現場改善活動報告会回数 <b>21</b> 回	品質保証レビュー実施件数 <b>500</b> 件

## お客様・お取引先様とのかかわりを支える取り組み

FDKグループはこれからも様々な環境の変化に柔軟かつ迅速に対応し、「先端技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献する」「スマートエナジーパートナー」として、お客様にご満足いただけ、信頼をおいていただけるようサービス・価値を提供してまいります。

## 様々な形で社会に貢献する電池、電子製品を供給

### 基本的な考え方

FDKグループは、高品質で安全な環境にやさしい、お客様にご満足いただける電池、電子製品を継続的に開発・供給するという考え方のもと、市場ニーズに応え社会課題の解決に貢献する製品開発、供給、品質保証体制の構築、グリーン調達を推進に努めています。

### FDKグループの取り組み

環境法や環境上の規範を遵守し、地球にやさしい素材を活かした電池、電子製品を提供し続けることで、未来を育む企業としての価値の向上を進めています。その一環として、これまで蓄積されてきた差別化技術を用い、そこから生み出される新たな付加価値が提供できる製品の開発に取り組んでいます。

### 特色のある差別化技術がもたらす「安心の提供」、「環境への責任」

FDKは電池と電子製品の技術を併せ持つ世界的にもユニークな企業グループです。

そうした特色が活かされた差別化技術は、一例として電池、電子製品でお互いの長所を融合した技術で蓄電システム製品を生み出しました。

お客様や市場が求める地球環境に配慮した製品を常に供給し続けることを心掛け、製品開発に取り組んでいます。

## 2018年度におけるお客様へのご紹介

FDKは、国内では二次電池・蓄電池の製造・開発に関する世界最大の展示会「バッテリージャパン」、電子部品技術展の「TECHNO-FRONTIER 2018」、最新のウェアラブルに関して出展される「ウェアラブルEXPO」など、また海外でも3件の展示会に出展し、FDKグループの電池、電子製品の技術、製品をご紹介するなど、FDKグループの技術力や社会課題の解決に貢献する製品やソリューションをアピールしました。

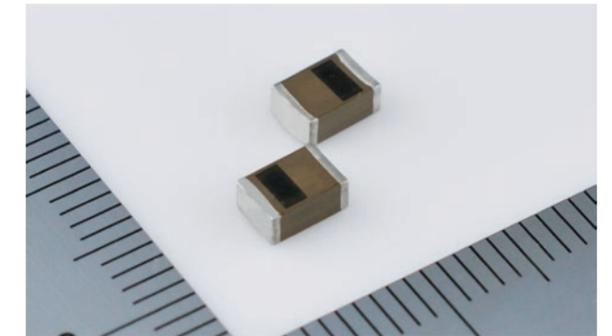


バッテリージャパン

## 次世代へ向けた製品開発

### ▶ 高エネルギー密度を有するSMD対応小型全固体電池のサンプル提供を開始

材料がすべて固体のため液漏れがなく、主に可燃性の有機系材料を使用している既存のリチウムイオン電池と比較し、高い安全性を有する全固体電池の開発を行ないサンプルの提供を開始、2019年5月には高容量化品の開発も発表しました。FDKの保有する電池技術と電子技術を融合した世界最高水準(\*2019.5月時点FDK調べ)の製品です。



全固体電池サンプル写真

## 2018年度の目標と実績

### 製品

- 市場ニーズに応える価値ある製品を成長期待の大きなインダストリアル市場に向け継続的投入
- 電池・電子の保有技術を利用し、市場ニーズに応える製品を市場投入
- 高特性と高品質を併せ持つ新磁性材料の開発と製品展開
- 大型システム電源技術の応用により高付加価値化を図った電源関連製品の積極的投入

### 取り組み

- 市場リサーチの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現
- お客様や市場の期待を超えた営業活動による信頼関係の強化
- BCPにもとづく継続的改善を行ない、様々なリスク発生時での早期復旧を実行

### 製品

- ニッケル水素電池  
家電市場向けコストダウンモデルの開発、供給に加え、車載、防災/セキュリティや、バックアップ電源などのインフラ市場向けにお客様のご要望や環境課題に対応した製品の開発、量産化に努めました。
- アルカリ乾電池  
耐漏液性能や長期保存性能を改善した、より安全安心な製品やコストダウンモデルの開発に向けた材料開発を進めました。また、環境に配慮したパッケージを開発し出荷を開始しました。
- リチウム電池  
国内外のスマートメータ向け製品の開発をスケジュールに沿って進めました。またカード、ウェアラブル市場向け薄形二次電池の開発を進め、バッテリージャパンに参考出展しました。

### 電子製品

- お客様の消費電力の低減に貢献するフェライト、コイルデバイス、積層パワーインダクタなどの開発を進めました。またお客様の製品の小型軽量化に貢献する各種モジュール製品の開発や株主総会の会場で用いるセンサーデバイスの量産出荷なども行ないました。
- 研究開発  
高い安全性を有するSMD対応小型全固体電池の開発とサンプル出荷を実現し、お客様や社会の課題解決に貢献する次世代電池の量産化に向けた取り組みを進めました。また社会インフラでの活躍が将来的に期待される水素/空気二次電池の開発に向けた取り組みを開始しました。

### 取り組み

- マーケティングの強化を進め、お客様や市場の動向を迅速に探知し、ニーズに即した技術開発提案の実現に向け、組織体制を見直し、また、構築したBCMの運用を今年度も継続しました。

これらの取り組みの結果、2018年度はエネルギー効率改善に寄与する製品を4件、資源効率改善に寄与する製品を3件開発しました。

## 品質や安全に配慮した開発と品質保証

### FDKグループ品質憲章

品質方針 「お客様の信頼に応える品質の提供」  
FDKグループは、FDK企業行動指針および富士通グループとして共通する理念・指針であるFUJITSU Wayの企業理念にもとづき、事業活動のあらゆる面において製品・サービスにおける品質・安全確保の努力を継続し、お客様・社会とともに豊かな未来を創造していくことで、企業価値の向上に努めます。

#### ▶ 1. 品質・安全指針

FDKグループは、以下の7つの指針に則り、製品・サービスの品質・安全(以下あわせて、品質という)を限りなく追求し、実現していきます。

##### 1) お客様起点での品質追求

お客様のパートナーとして、お客様に安全・安心にご利用いただくための製品・サービスの品質を継続的に生み出していきます。

##### 2) 変化を先取りした品質づくり

お客様を取り巻く環境変化を先取りし、美しさ、使いやすさ、分かりやすさなどを含めた幅広い品質を追求していきます。

##### 3) 社会的責任を果たす品質の確保

国内外の品質に関する諸法令で定められた基準に加え、自主基準を整備し、遵守することにより、お客様へ安全・安心にご利用いただける製品・サービスを提供します。

##### 4) 三現主義(現場、現物、現実)による継続的改善

製品・サービスの品質情報やお客様の声などを積極的に収集・把握・分析し、製品・サービスの品質を継続的に改善します。

##### 5) ビジネスパートナーと連携した品質向上

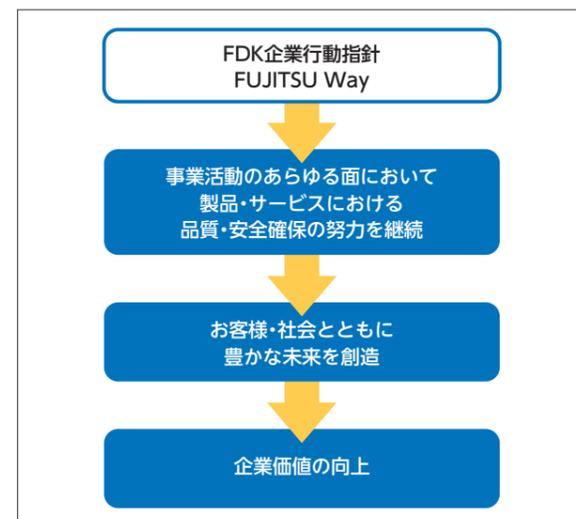
ビジネスパートナーと品質の考え方を共有し、信頼関係を培って品質向上に取り組んでいきます。

##### 6) 品質情報の公開と対応

お客様が製品・サービスを安全・安心にご利用いただけるよう、迅速かつ適切に必要な品質情報を公開し対応します。

##### 7) 品質を考える人づくり

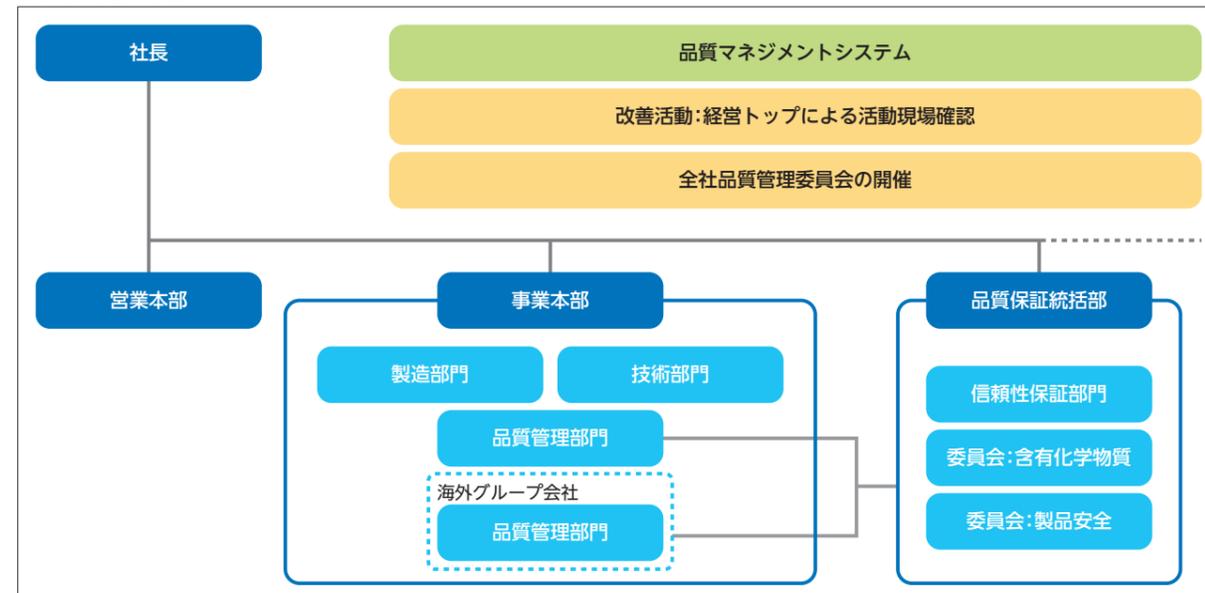
品質意識の高揚や品質技術の向上に努め、常に品質を考えて行動する人材を育成します。



#### ▶ 2. 品質保証体制

FDKグループは、品質・安全指針を実践するための品質保証体制を構築し、品質保証活動に継続的に取り組まします。

#### ■ 品質保証体制図



#### ▶ 3. ISO9001/IATF16949 認証取得状況

FDKは、品質マネジメントシステム(QMS:Quality Management System)のもとで継続的なプロセス改善に取り組んでおり、2019年5月現在、海外を含めた全9拠点でISO9001認証を取得し、うち3拠点でIATF16949認証を取得しています。

#### ▶ 4. 品質保証の取り組み

##### ① 品質保証体制

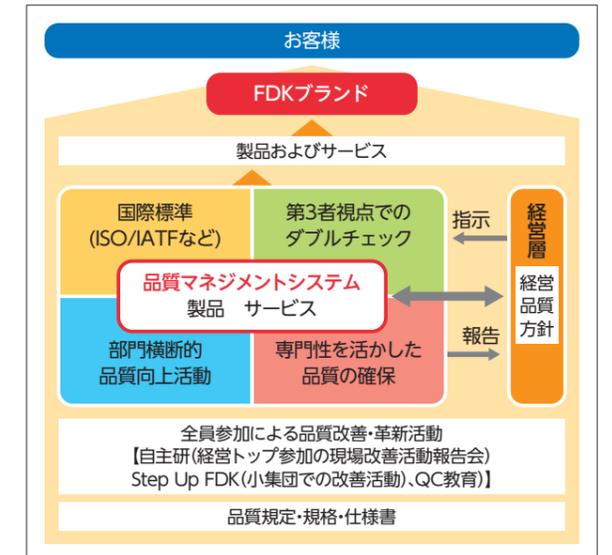
お客様が要求する機能・性能・その他の内容を満足する製品・サービスの品質を提供するためには、経営層と様々な部門が連携し企業活動の全段階にわたり、全員参加活動が必要です。このため組織が一体となる体制や仕組みが無いと継続して活動ができません。

FDKでは、3項に記載のようなQMSを構築・運用しており、製品企画から製造・出荷・アフターサービスに至るまでの各ステップで、お客様にご満足いただける品質を実現し保証していきます。これらQMSの運用においては、PDCA(Plan Do Check Action)のマネジメントサイクルを回し、より良い品質を目指し、継続的改善を図っています。

##### ② 品質保証の推進体制

FDKは多岐にわたる製品群、海外を含めた各事業拠点の品質保証活動における連携活動にも取り組んでいます。品質保証統括部では、その活動を牽引すべく全事業部との定期的な打合せによる情報共有、品質方針策定、コンプライアンスに関わる問題や品質トラブル発生時のエスカレーション、人材育成のための教育、不具合事例やノウハウなどに対する水平展開に積極的に取り組んでいます。また経営トップ主催による「全社品質管理委員会」を設け、製品枠を超えて経営面からのアプローチも図っています。

#### ■ 品質保証の枠組み



#### 品質保証強化への取り組みの改善プロセス

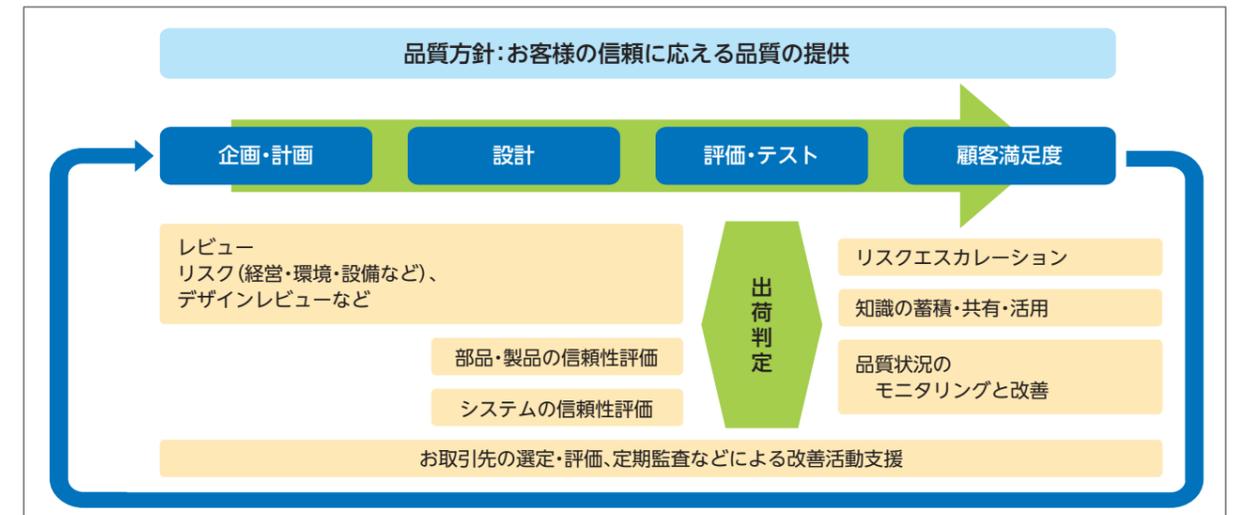
##### ▶ 1. 客観的な視点による製品・サービスの品質保証活動

品質方針であるお客様の信頼に応える品質を提供するために、企画から量産移管に至る各検証プロセスにおいて、品質関連規定や細則にもとづき自部門だけでなく関係部門を交えた広い知見でレビューを実施し、より客観的な検証を強化しています。品質保証活動ステップの代表としてのデザインレビューによる検証は年間約500件です。

##### ▶ 2. グリーン調達への取り組み

FDKグループは、環境負荷を考慮した事業活動と環境配慮製品の提供により持続可能な社会の発展に貢献しています。「FDKグループ グリーン調達基準」にもとづいた環境に配慮した調達品の使用を通じて、お客様へ環境配慮製品を提供しています。

#### ■ 品質保証の各検証プロセス図



# 社会とのかかわり



## 社会的要請

- 的確で透明な情報開示
- ステークホルダーとの双方向コミュニケーション
- ESG、非財務情報開示要請の高まり

## FDKのアプローチ

- ステークホルダーとの対話と協力

## 社会とのかかわりのハイライト



## 社会とのかかわりを支える取り組み

### ステークホルダーとの対話と協力

#### 基本的な考え方

FDKグループは良き企業市民として、ステークホルダーの多様な期待と要請を理解して企業活動を実施することを方針としています。公開すべき情報を的確に開示し、ステークホルダーとの対話を行ない、事業活動への反映を通じて社会に貢献する企業活動を継続的にこなうことにより企業価値の向上に努めます。

#### 取り組み事例① 2018年度の目標と実績

##### 2018年度の目標

- |   |  |
|---|--|
| <b>① CSR報告書の発行</b><br>(2017年度版の発行完了と2018年度版の立案、作成開始)                  | <b>④ 取引先</b><br>双方向コミュニケーションの充実                            |
| <b>② お客様</b><br>情報提供要請に対する適切な情報開示                                     | <b>⑤ 従業員</b><br>労使対話、満足度調査、経営トップとの対話、リスクマネジメント推進           |
| <b>③ 株主、投資家</b><br>株主総会、IRミーティング、ホームページ上の情報開示、経営方針・決算説明会など対話の実行に向けた検討 | <b>⑥ 地域社会</b><br>地域住民などへの社会貢献活動(地域住民交流会、清掃活動、工場見学、乾電池教室など) |

#### 2018年度の実績

- CSR報告書の発行**  
2017年度版CSR報告書は2018年9月に発行しました。当社従業員、外部の方などからの評価を確認し、2018年度版(2019年発行版)の検討を進めています。
- お客様**  
お客様からの会社概要などの問い合わせの対応や展示会に出展し、お客様への適切な情報提供に努めました。
- 株主、投資家**  
年間179件の株主、投資家からの問い合わせなどに対応し、適切な説明に努めました。外部のステークホルダーに対しては、当社ホームページ上の適時適切な開示に努めました。
- 取引先**  
218社の部材調達先、業務委託、人材派遣、産業廃棄物処理委託会社などに対して、CSR調査を実施するとともに、結果のフィードバックをいたしました。
- 従業員**  
従業員に対しては、引き続き定期的な労使対話に努めました。また3件の人事ホットラインへの相談があり、適切な対応に努めました。
- 地域社会**  
地域社会への貢献活動などについては、取り組み事例②のとおりです。

#### 取り組み事例② 地域社会への貢献活動

FDKグループでは、ステークホルダーとの対話機会の充実を図る取り組みの一つとして、地域社会への貢献活動に積極的に取り組んでいます。

FDKの事業の特徴を活かした小中学生に対する乾電池教室や出前環境授業、工場見学会、また地域と密着した清掃活動やイベントへの参画、募金・寄贈・献血活動など様々な活動を年間通じてグループ会社の工場を含めた全事業所で行なっています。

#### 事業を活かした地域・社会貢献活動

・乾電池教室 (本社、湖西、鷺津)	・工場見学(鷺津)	・各事業所の取り組み状況								
	・出前環境授業(高崎)	<table border="1"> <tr> <td>本 社</td> <td>乾電池教室 2回、 [太陽とツナガル電池の音]コンサート 12回</td> </tr> <tr> <td>湖西工場</td> <td>乾電池教室 2回、 科学体験実験への参加 1回</td> </tr> <tr> <td>鷺津工場</td> <td>乾電池教室 4回、 工場見学 2回</td> </tr> <tr> <td>高崎工場</td> <td>出前環境授業 2回</td> </tr> </table>	本 社	乾電池教室 2回、 [太陽とツナガル電池の音]コンサート 12回	湖西工場	乾電池教室 2回、 科学体験実験への参加 1回	鷺津工場	乾電池教室 4回、 工場見学 2回	高崎工場	出前環境授業 2回
本 社	乾電池教室 2回、 [太陽とツナガル電池の音]コンサート 12回									
湖西工場	乾電池教室 2回、 科学体験実験への参加 1回									
鷺津工場	乾電池教室 4回、 工場見学 2回									
高崎工場	出前環境授業 2回									

#### 地域社会への恒常的な貢献活動

・花壇の植え付け(鳥取)	・事業所近隣清掃活動(高崎)	・その他各事業所の取り組み状況										
・海岸清掃活動(鳥取)	・浜名湖クリーン作戦参加(湖西、鷺津)	<table border="1"> <tr> <td>湖西工場</td> <td>交通安全運動 4回、 地域清掃活動 4回、 献血活動 2回、 寄贈(中古ファイル) 1回、 地域行事(おいでん祭)参加 1回</td> </tr> <tr> <td>鷺津工場</td> <td>地域清掃活動 3回、 献血活動 1回、 寄贈(切手、ベルマーク) 2回</td> </tr> <tr> <td>高崎工場</td> <td>地域清掃活動 3回、 献血活動 2回</td> </tr> <tr> <td>鳥取工場</td> <td>地域清掃・花壇植付け活動 10回、 献血活動 2回、 募金・寄贈 6回、 シルバー人材センター作成品の社内斡旋 1回</td> </tr> <tr> <td>FDK エンジニアリング</td> <td>地域清掃活動 1回</td> </tr> </table>	湖西工場	交通安全運動 4回、 地域清掃活動 4回、 献血活動 2回、 寄贈(中古ファイル) 1回、 地域行事(おいでん祭)参加 1回	鷺津工場	地域清掃活動 3回、 献血活動 1回、 寄贈(切手、ベルマーク) 2回	高崎工場	地域清掃活動 3回、 献血活動 2回	鳥取工場	地域清掃・花壇植付け活動 10回、 献血活動 2回、 募金・寄贈 6回、 シルバー人材センター作成品の社内斡旋 1回	FDK エンジニアリング	地域清掃活動 1回
湖西工場	交通安全運動 4回、 地域清掃活動 4回、 献血活動 2回、 寄贈(中古ファイル) 1回、 地域行事(おいでん祭)参加 1回											
鷺津工場	地域清掃活動 3回、 献血活動 1回、 寄贈(切手、ベルマーク) 2回											
高崎工場	地域清掃活動 3回、 献血活動 2回											
鳥取工場	地域清掃・花壇植付け活動 10回、 献血活動 2回、 募金・寄贈 6回、 シルバー人材センター作成品の社内斡旋 1回											
FDK エンジニアリング	地域清掃活動 1回											

# 従業員とのかかわり



## 社会的要請

- 働き方改革、働きやすい環境の整備  
(残業時間の削減、有休取得率の向上、介護・育児制度の充実)
- 均等な雇用(定年再雇用、障がい者の雇用、女性活躍推進)

## FDKのアプローチ

- 多様性の受容
- 地球と社会に貢献する人材の育成
- 社内制度の整備と周知

## 従業員とのかかわりのハイライト



## 従業員とのかかわりを支える取り組み

### 多様性の受容

#### 基本的な考え方

FDKグループでは、国籍、性別、年齢の違いや障がいの有無などにかかわらず多様な人材を受け入れ、個人を尊重し合うことで社員一人ひとりと組織がともに成長したいと考えており、様々な価値観や働き方を取り入れ、企業価値を高める「経営戦略」として、ダイバーシティに取り組んでいます。また、グローバルな視点に立ち、社会の発展に貢献する高い志を持った人材の育成に取り組んでいます。

#### 取り組み事例① 人権尊重への取り組み

FDKグループで働くすべての人が、あらゆる差別を排除し、多様な人材を受け入れ、それらの行動を実践するために、研修、セミナーによる啓発活動を行なっています。

#### 人権尊重にかかる2018年度の目標と実績

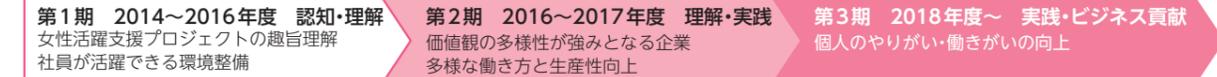
##### ▶ 人権に関する啓発活動

12月の人権週間にあわせて人権啓発活動を行ない、人権尊重の意識を広げる。

- 人権意識の向上を目的としたセミナーの開催
- 「人権啓発リーフレット」の全員配布
- 人権に関する教育・研修  
各種研修会カリキュラムに人権研修を組み込み、積極的に人権について考える機会を設ける。
- マネジメント研修
- 新任課長研修
- 主任昇格者研修
- 中堅社員研修 など

## 取り組み事例② ダイバーシティの取り組み

### ▶ マイルストーン



#### ▶ 第1期:2014~2016年度(認知・理解)

- 女性社員の活躍機会の拡大と支援を目的として『女性の活躍支援プロジェクト』を発足し、意識の向上や就業面の改善に取り組みました。
- 仕事、家庭、地域生活の調和がとれた生活の実現に向け、各拠点にて「男女共同参画」に加入しています。

#### ▶ 第2期:2016~2017年度(理解・実践)

- 制約のある無しにかかわらず将来のキャリアを自律的に描き、幹部社員はその成長を期待・支援する、そのようなサイクルが回り続ける組織の進化に向けた取り組みを展開しています。

#### ▶ 第3期:2018年度~(実践・ビジネス貢献)

- 「ダイバーシティ&ワークライフバランス」を重要な経営戦略とし、働き方改革に取り組みます。

#### ダイバーシティ推進の体制

2014年度より女性社員の働きやすい環境整備を進めてきましたが、その後、男女にかかわらず個の成長とそれによる新しい価値の創造を目指し、「多様な人材の活躍支援」と「多様な働き方の実現」の2つを軸にダイバーシティを推進しています。

#### ▶ ダイバーシティの方針

ES(従業員満足度)調査で抽出された課題、社長と社員の座談会での意見、女性社員を対象としたダイバーシティに関するアンケートの結果より、次の2点を掲げ推進しています。

#### 個人の成長・やりがいの向上

社員一人ひとりが、お互いを認め、自分ならではの付加価値を発揮し、組織に貢献する。

#### 企業の競争力強化・成長

多様な視点から自由闊達に議論することで、新たな知恵と技術を創造し続ける

#### ダイバーシティにかかる2018年度の目標と実績

##### ▶ 意識改革、組織の風土改革

- 全幹部社員と全主任級社員を対象とした職場マネジメントセミナーの実施

##### ▶ 一人ひとりの意欲の発揮に向けた働きがいの向上

- 上位階層向けリーダーシップ研修の実施
- キャリア形成の構築と周りの支援強化
- シニア管理職を対象としたキャリアデザイン研修の実施

#### ▶ 総労働時間低減によりワークライフバランスの意識向上

- より少ない時間で高い成果を生み出せる環境の整備
- 業務の標準化、マニュアル化、一人作業の廃止
- 会議、資料作成時間の削減
- ノー残業デーの徹底
- 年間6日の一斉有休、有休取得推奨日の設定

#### ▶ 定年退職後に向けた取り組み

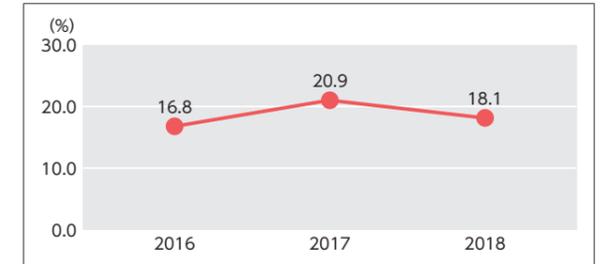
- 55歳以上の従業員を対象としたシニアライフプランセミナーの実施

#### ▶ 女性活躍推進法の推進

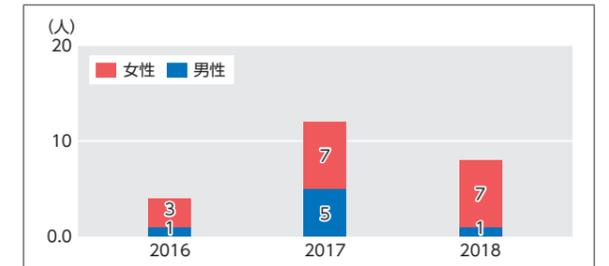
- 女性の意識改革と監督職の増員

上記を含み、2018年度はダイバーシティに関するセミナーを合計40回実施しました。

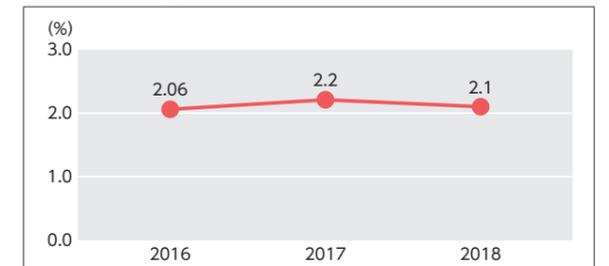
#### ■ 女性社員の雇用比率



#### ■ 育児休暇制度の利用者数



#### ■ 障がい者雇用率の推移



## 地球と社会に貢献する人材の育成

### 取り組み事例③ 人材育成方針

#### ▶ 人材育成の4テーマ

FDKグループの人材育成については大きく4つのテーマに分けて考え、それぞれのテーマに沿った教育に取り組んでいます。



### 取り組み事例④

#### ▶ 階層別研修の充実

2018年度は、2017年度に見直したカリキュラムをブラッシュアップし、法令遵守への意識向上や、職場におけるリーダーシップなど、階層ごとに必要な知識やスキルの習得を目的とした研修を実施しました。

#### 階層別研修の実施状況

- 新任部長研修
- 新任幹部社員研修
- 主任昇格者研修
- 中堅社員研修(アドバンス、ベーシック)
- 新入社員研修

#### ▶ 専門能力強化

電気電子系メカトロニクスの技術習得を目的に、株式会社FUJITSUユニバーシティが運営する、富士通技術学院に2名派遣しました。

#### ▶ グローバルビジネスリーダー育成

FDKでは、グローバル人材を「自社に関する十分な知識を持ち、他国の文化を尊重しながら、異なる文化環境での業務に対応する」「グローバルな視点で物事を思考し、実行する能力(語学力、コミュニケーション力)を有する」と定義しています。

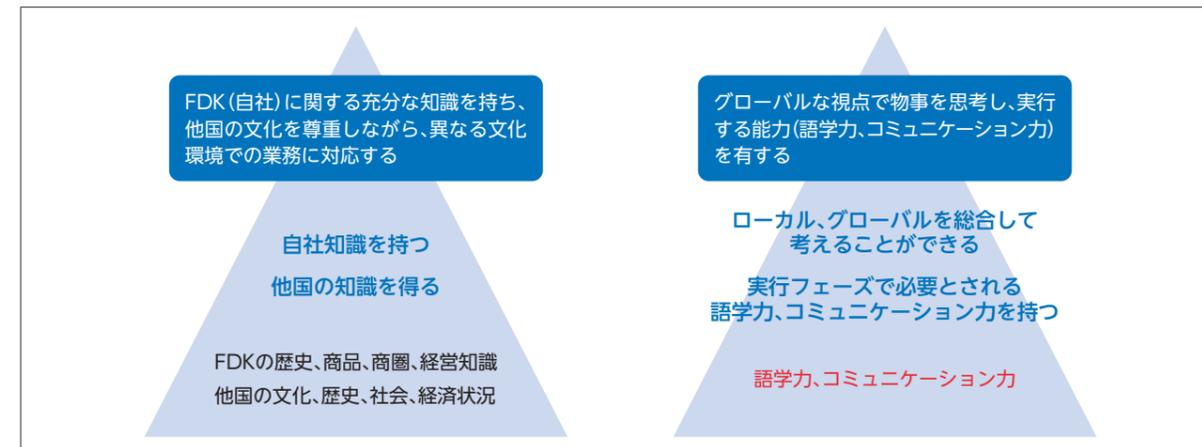


階層別研修



異文化理解研修

### ■ グローバル人材イメージ図



2018年度はグローバルビジネスをするために重要な異文化理解を深めることを目的とした、異文化理解研修を新設し13名が受講しました。

また、語学力の向上のために、様々な学習形態(通学、e-learning、オンライン英会話)を選択可能とし、全事業所に対して平等な学習機会を提供しています。

さらに、自身の語学力を認識するために、「TOEIC」を階層別研修で実施したほか、希望者を対象に年2回実施しました。

#### ▶ 次世代リーダー育成

FDKでは、社会とのかかわりを見据えた広い視野を持つ「主体的で自立した個」を育成し、社員の意識改革、思考改革を社内に展開、普及させていくことで、環境の変化を機敏に察知し、変化に対応できる強い組織の実現を目的とした次世代リーダー育成のための研修を開催しています。

この研修は、漏れのない発想・新たな想像・気づく力を向上させるため、様々な視点で物事を見て考えることを主体としています。2018年度は15名が年間を通じて参加しました。

また、次世代のリーダーに必要なスキルやチームマネジメントに関する知識の習得、リーダーシップの啓発を目的とした研修を新設し、14名が参加しました。



次世代ビジネスリーダー研修

### 人材育成体系

全社員が共有すべき知識や技能および基本行動に関する「基礎研修」、新入社員から幹部社員までそれぞれの立場・役割に応じた「階層別研修」、そして職種の専門性を高める「専門能力研修」の3区分に応じた教育を実施しています。

### ■ 人材育成体系図



## 社会的要請

- 社会全体の環境負荷低減
- 地球温暖化防止
- 廃棄物の削減

## FDKのアプローチ

- 環境配慮製品の提供
- 生産性向上、設備の更新
- 有価物への転用、分別の徹底

## 環境保全活動のハイライト

第8期環境行動計画 目標6項目うち  <b>3</b> 項目達成	環境配慮設計  <b>目標達成*</b>	温室効果ガス削減  <b>目標達成*</b>	エネルギー効率改善 5拠点中  <b>4</b> 拠点達成
化学物質削減 4拠点中  <b>3</b> 拠点達成	廃棄物削減 5拠点中  <b>4</b> 拠点達成	地域環境・社会貢献  <b>目標達成*</b>	*詳細のデータは次ページ参照

## 環境保全活動を支える取り組み

### 地球環境保全への対応

#### 基本的な考え方

「FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために」のスローガンのもと、FDKグループでは、美しい地球環境が次の世代へと受け継がれるよう、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけており、事業の独自性を反映させた環境経営を推進しています。

#### FDKグループ環境憲章

FDKグループは、富士通グループの一員として企業の事業活動に伴う環境保全への取り組みについて、各国、地域の法規制対応や、温室効果ガス削減、廃棄物削減、化学物質管理の徹底のみならず、提供する製品を通しての環境負荷低減など、地球規模の視点で主体的に持続可能な循環社会実現に向けて行動しなければならないと認識しています。全社的に、より確かな環境経営を推進するため、「FDKグループ環境憲章」を制定しており、FDKグループのビジョンを包含して次のとおり展開しています。

## FDKグループ環境憲章

FDKグループは、以下の環境理念のもと、スローガンを定め、環境経営を推進してまいります。

### 〈理念〉

FDKグループは、「電気エネルギーを効率的に利用する技術でグローバルに社会に貢献」をグループのミッションとし、Smart Energy Manager (スマート・エナジー・マネージャー)として、お客様にご満足いただくとともに、環境に貢献する電池、電子製品を中心とした製品を開発、供給し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

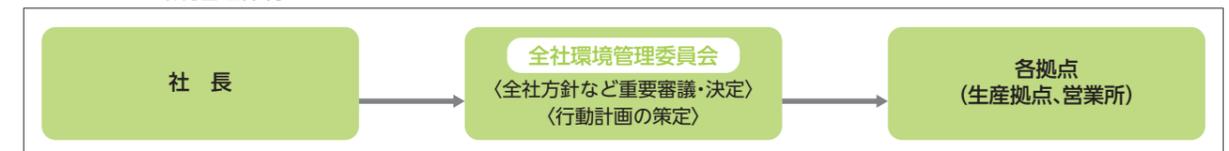
また、FDKグループは、豊かな自然・美しい地球環境を次世代に伝えていくため、環境法や環境上の規範を遵守した公正な企業活動を通じ、社員一人ひとりとはもとより、「One FDK」として環境への取り組みを推進してまいります。

### 〈FDKグループ スローガン〉

FDKグループは地球を愛します かぎりある自然のために

以上

## FDKグループ環境管理体制



### FDKグループ第8期環境行動計画(2016年度～2018年度)

FDKグループでは、富士通グループ環境行動計画に準拠した3ヶ年計画を策定し、環境への取り組みを推進しています。これらの方針・目標などを通じて、全事業領域にわたり計画的かつ継続的に活動を展開し、自社の環境負荷低減に努めると

もに、お客様・社会の環境負荷低減に貢献しています。

2018年度の結果は下表となりました。未達成のテーマについては、原因の分析を行ない、新たな仕組みを構築することにより、対応してまいります。

項目	行動計画 (2016年～2018年)	2018年度	
		目標	実績
環境配慮設計	エネルギー効率改善(省エネルギー)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。	電池・電子製品を各拠点で年1件以上開発	(湖西)電源ユニット製品の開発 (高崎)リサイクル材を利用したニッケル水素電池の開発 (鳥取)筒形リチウム電池の容量向上
	資源効率改善(省資源)に寄与する電池・電子製品を年1件以上開発する。	電池・電子製品を各拠点で年1件以上開発	(湖西)DCDCモジュール製品の小型化 (高崎)低自己放電モデルのニッケル水素電池の開発
温室効果ガス削減	2018年度末までにエネルギー消費CO <sub>2</sub> 排出量を2013年度比15%削減する。(46,169t以下に抑える)	国内FDKグループ全体で排出量を2018年度末までに46,169t以下に抑える	43,463t 老朽化設備の更新、照明LED化、エア漏れ対策などを実施
エネルギー効率	エネルギー消費原単位を年平均1%改善する。	年平均1%改善	4拠点で目標達成、1拠点で未達成
化学物質削減	2018年度末までにPRTR*対象物質排出原単位を2015年度比3%改善する。	各拠点で2015年度比3%改善	3拠点で目標達成、1拠点で未達成
廃棄物削減	2018年度末までに廃棄物発生原単位を2015年度比3%改善する。	各拠点で2015年度比3%改善	4拠点で目標達成、1拠点で未達成
地域環境・社会貢献	地域の環境貢献・社会貢献活動の取り組みを年2件以上実施する。	各拠点2件/年以上実施	P23およびP24をご参照ください。

\*PRTR(化学物質排出移動量届出制度:Pollutant Release and Transfer Register):人の健康や生態系に有害な恐れのある化学物質について、事業所からの環境(大気、水、土壌)への排出量および廃棄物に含まれる事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届出るとともに、国は届出データや推計にもとづき、排出量・移動量を推計し、公表する制度。

### ISO14001の認証範囲に国内営業所を追加

2018年度、ISO14001の認証範囲に国内営業所を追加しました。生産拠点と営業所が一体となり環境活動を進めてまいります。

### ㈱FDKエンジニアリングの工場コンパクト化による電力大幅削減

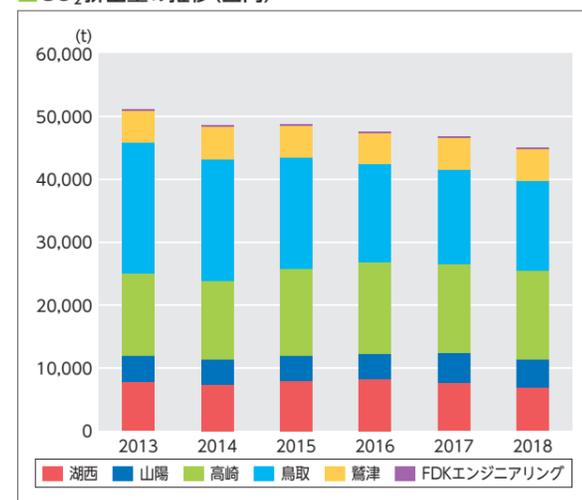
グループ会社である㈱FDKエンジニアリングでは耐震対策として工場の建て替えを行ないました。

これにあわせて以下のような建屋の省エネ対策を進めました。

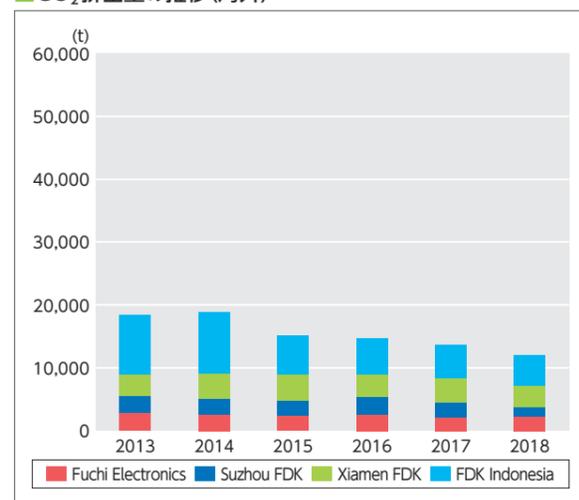
- ①工場内に移動式クレーンを設置し、生産効率を高め、作業ペースを縮小。
  - ②省エネ効果の高い屋根材、外壁、ペアガラス、省エネ空調、LED照明などを新工場に採用。
- これらの効果により、建物面積を25%削減。電力使用量を38%削減いたしました。

### CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内、国外) 2013年度～2018年度

CO<sub>2</sub>排出量の推移(国内)

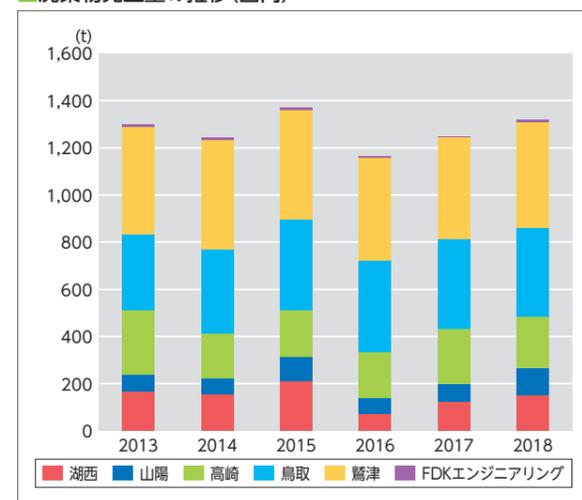


CO<sub>2</sub>排出量の推移(海外)

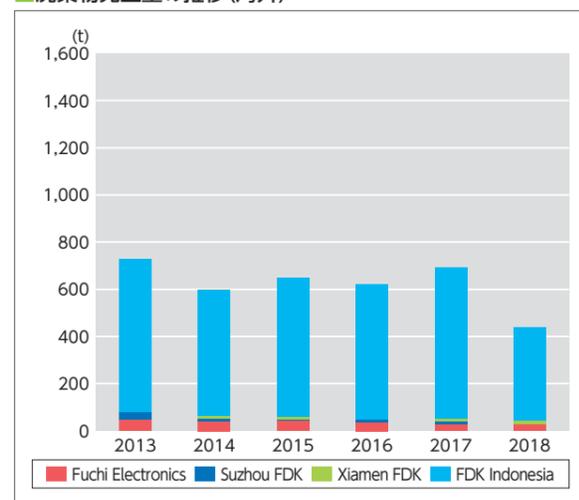


### 廃棄物発生量の推移(国内、国外) 2013年度～2018年度

廃棄物発生量の推移(国内)



廃棄物発生量の推移(海外)



### 事業所別環境パフォーマンスデータ

項目	(単位)	湖西工場	高崎工場	鳥取工場	鷺津工場	FDKエンジニアリング
CO <sub>2</sub> 排出量	2018年度 前年度	6,830 7,772	14,179 14,171	12,524 15,004	5,142 5,105	158 239
水使用量	2018年度 前年度	94,707 84,024	22,699 24,179	69,520 98,717	44,865 46,691	747 739
PRTR対象物質排出量	2018年度 前年度	0 3	0 182	139 178	3 -	- -
SOx排出量	2018年度 前年度	- -	- -	- -	- -	- -
NOx排出量	2018年度 前年度	375 167	- -	1,728 4,688	- -	- -
ばいじん(測定濃度)	2018年度 前年度	- -	- -	0.001未満 -	- -	- -
排水量	2018年度 前年度	94,707 84,024	21,796 23,629	33,889 51,816	44,863 46,691	538 739
廃棄物	2018年度 前年度	153 122	218 231	380 380	449 433	10 5

項目	(単位)	FDK エコテック	Xiamen FDK	Fuchi Electronics	FDK Indonesia
CO <sub>2</sub> 排出量	2018年度 前年度	28 25	3,517 3,720	2,319 2,227	4,795 2,412
水使用量	2018年度 前年度	- -	23,608 20,633	9,040 7,892	10,087 11,366
PRTR対象物質排出量	2018年度 前年度	- -	- -	- -	- -
SOx排出量	2018年度 前年度	- -	- -	- -	- -
NOx排出量	2018年度 前年度	- -	- -	- -	- -
ばいじん(測定濃度)	2018年度 前年度	- -	- -	- -	- -
排水量	2018年度 前年度	- -	18,886 16,506	9,040 7,892	10,087 11,366
廃棄物	2018年度 前年度	- -	12 10	26 7	397 645

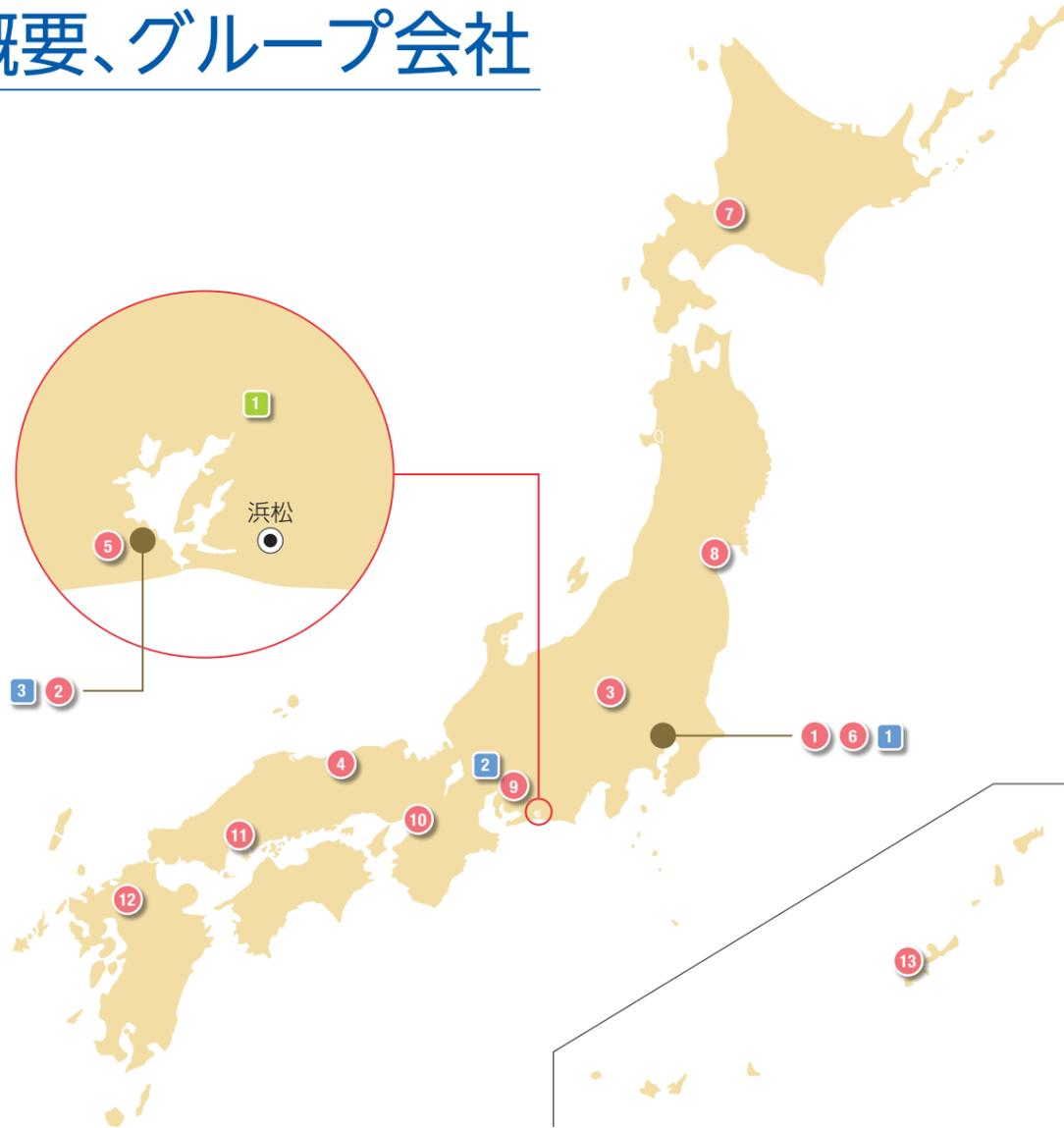
\*「-」は、集計対象外、該当なし、又は隔年で測定義務があるもので、当該年度の測定を行っていないものです。  
 \*購入電力についてはCO<sub>2</sub>換算係数を0.57t-CO<sub>2</sub>/MWhで計算し、CO<sub>2</sub>排出量に算入。  
 \* Suzhou FDKは、2019年1月をもって操業を停止したため、上記より除外いたしました。  
 \* 山陽工場は同工場での生産製品事業の譲渡を2019年4月に決定したため、上記より除外いたしました。

### 「太陽とツナガル電池の音」コンサート

FDKでは、「電池を通して地球を考える」のテーマのもと、環境活動の一環として、希少楽器であるクラビオーラの世界唯一の奏者である折重由美子氏による、商用電源を使用せずニッケル水素電池のみを電源とした「太陽とツナガル電池の音コンサート」をサポートしています。2018年度は国内外で12回の公演を開催し、多くの方々に来場いただきました。FDKではこれからも自社の事業を活かした社会・環境貢献活動に取り組んでまいります。



# 概要、グループ会社



## ■ 本社、事業所、営業所

### 本社

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 本社	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7400	EC98J2005	-

### 事業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
2 湖西工場	〒431-0495 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-2151	EC98J2005	4745
3 高崎工場	〒370-0071 群馬県高崎市小八木町307-2 TEL:027-361-7575	EC98J2005	4184927
4 鳥取工場	〒681-0063 鳥取県岩美郡岩美町太田28 TEL:0857-73-1771	EC98J2005	ISO9001:4193838 IATF16949:281965
5 鷺津工場	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津614 TEL:053-576-2111	EC98J2005	JQA-0459

### 営業所

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
6 首都圏営業所	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7436	EC98J2005	-
7 札幌営業所	〒060-0007 北海道札幌市中央区北7条西13-9-1 (塚本ビル7号館) TEL:011-798-4699	EC98J2005	-
8 仙台営業所	〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区福岡4-12-1 (シエロ仙台東口ビル) TEL:022-293-5265	EC98J2005	-
9 名古屋営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-38-2 (オーキッドビル) TEL:052-561-3141	EC98J2005	-
10 大阪営業所	〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル) (電池営業部門) TEL:06-6350-4883 (電子営業部門) TEL:06-6350-4877	EC98J2005	-
11 広島営業所	〒732-0052 広島県広島市東区光町2-9-27 (ユーベック光町ビル) TEL:082-535-1450	EC98J2005	-
12 福岡営業所	〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町1-28 (いちご博多ビル) TEL:092-291-9421	EC98J2005	-
13 沖縄営業センター	〒901-2128 沖縄県浦添市伊奈武瀬1-9-6 (琉球通運(株)T.C.事業部内) TEL:098-868-8685	EC98J2005	-

## ■ グループ会社(生産関連会社4社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 (株)FDK エンジニアリング	〒431-1302 静岡県浜松市北区細江町広岡281 TEL:053-522-5280	EC98J2005	JQA-QMA15241
2 XIAMEN FDK CORPORATION	No. 16, Malong Road, Huoju Garden, Huoju Hi-Tech District, Xiamen, Fujian, China TEL:+86-592-603-0576	00117E20324R3M/3502	ISO9001:00117Q30657R3M/3502 IATF16949:298607
3 FUCHI ELECTRONICS CO., LTD.	No. 355, Section 2, Nankan Road, Rutsu Shan, Tao Yuan, Taiwan TEL:+886-3-322-2124	4E9E001-03	ISO9001:2015/69024.3 IATF16949:0339560
4 PT FDK INDONESIA	Kawasan Industri MM2100, Blok MM-1 Jatiwangi Cikarang Barat, Bekasi 17520 Jawa Barat, Indonesia TEL:+62-21-8998-2111	13/02329	13/02328

## ■ グループ会社(販売会社など10社)

事業所	住所	ISO14001	ISO9000'sおよびTS/IATF16949
1 FDK販売(株)	〒108-8212 東京都港区港南1-6-41 (品川クリスタルスクエア) TEL:03-5715-7430	EC98J2005	-
2 FDKエコテック(株) (岐阜事業所)	〒503-0322 岐阜県海津市平田町土倉字江東478 TEL:0584-66-4781	EC98J2005	-
3 FDKパートナーズ(株)	〒431-0431 静岡県湖西市鷺津2281 TEL:053-576-3121	EC98J2005	-
4 FDK AMERICA, INC.	(Head Office) 1280 E. Arques Avenue, MS310, Sunnyvale, CA 94085, U.S.A. TEL:+1-408-746-6815 (Dallas Office) 2801 Telecom Parkway, MS C1R, Richardson, Texas 75082, U.S.A. TEL:+1-972-231-2531	-	-
5 FDK ELECTRONICS GMBH	Einsteinring 24, 85609 Aschheim/Munich, Germany TEL:+49-89-3306680-0	-	91110693/2
6 FDK SINGAPORE PTE. LTD.	4, Leng Kee Road, #04-08 SIS Bldg., Singapore 159088, Singapore TEL:+65-6472-2328	-	-
7 FDK HONG KONG LTD.	Suite 1607-1608A, 16/F., Tower 3, China Hong Kong City, 33 Canton Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2799-9773	-	-
8 FDK KOREA LTD.	11F, Kyobo Life Insurance Bldg., 1, Jong-ro, Jongno-Gu, Seoul 03154, Republic of Korea TEL:+82-2-582-8452	-	-
9 FDK TAIWAN LTD.	8F.-4, No.57, Sec. 1, Chongqing S. Rd., Zhongzheng Dist., Taipei City 100, Taiwan TEL:+886-2-2311-5161	-	-
10 FDK (THAILAND) CO., LTD.	408/150, 35th Floor Phaholyothin Place Building, Phaholyothin Road, Khweng Samsain-nai, Khet Phayathai, Bangkok 10400 Thailand TEL:+66-2-163-4664	-	-

\* ISO14001、ISO9000'sおよびTS/IATF16949など、第三者認証取得状況は、2019年3月31日現在

